

国語

(1～14ページ)

注意

- 1 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答は解答用紙にマークしなさい。
ただし、使用しない解答欄があります。
- 3 解答用紙に受験番号と氏名を記入しなさい。
- 4 試験時間は六〇分です。
- 5 試験開始後、問題用紙に不備(ページのふぞろい・印刷不鮮明など)があったら申し出なさい。
- 6 問題の内容についての質問には、いつさい応じられません。

解答用紙の受験番号欄記入例

数字の位置	受 験 番 号				
	万	千	百	十	一
	2	/	9	0	/
0	/	0	0	●	0
1	①	●	①	①	●
2	●	②	②	②	②
3	③	③	③	③	③
4	④	④	④	④	④
5	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
6	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥
7	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦
8	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧
9	⑨	⑨	●	⑨	⑨

数字の位置に注意してマークしなさい

マーク式解答欄記入上の注意

1. 解答は、HBの黒鉛筆を使用して丁寧にマークしなさい。
《マーク例》
良い例 ●
悪い例 ◊ ○ ✕ ◐ ○
2. 訂正する場合は、プラスチック消しゴムで、きれいにマークを消し取りなさい。
3. 所定の記入欄以外には、何も記入してはいけません。
4. 解答用紙を汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

I 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。

人類学者のデヴィッド・グレーバーは『ブルシット・ジョブ——クソどうでもいい仕事の理論』で、数値化が仕事にもたらす影響を、「ブルシット化」という強烈的な言葉で分析しています。「ブルシット」とは、副題にあるとおり「クソどうでもいい」ということ。いま、世界的に「クソどうでもいい仕事」ブルシット・ジョブ」が増えていくと言っているのです。

注意しなければならないのは、「ブルシット・ジョブ」は「シット・ジョブ」①「クソ仕事」とは違う、ということ。シット・ジョブとは、割に合わない仕事のこと。社会的に必要な仕事で、誰かがやらなければならないにもかかわらず、不潔であったり、危険と隣り合わせであったりして、それゆえに蔑まれ、給与面ではレイグウ^アされている。しばしば日雇いで、あるいは時給制で給与が払われる、典型的なブルーカラー。これがシット・ジョブです。

これに対して、ブルシット・ジョブの多くはホワイトカラーで、仕事に見合わないほど高給取りです。グレーバーは、その内実をこう定義します。

ブルシット・ジョブとは、被雇用者本人でさえ、その存在を正当化しがたいほど、完璧に無意味で、不要でもあるユウシヨウ^イの雇用の形態である。とはいえ、その雇用条件の一環として、本人は、そうではないと取り繕わなければならないように感じている。

(「ブルシット・ジョブ」)

つまり、ブルシット・ジョブとは、実際には「完璧に無意味で、不要で、有害」なのに、あたかも「意味があつて、必要で、有用」であるかのように振

る舞わなければいけない雇用形態のことです。なくても済むのに部下を監督するマネージャー職。リクエストを担当者に回すだけのコーディネーター職。グレーバーの本には、世界中から寄せられた「自分の仕事をブルシットだと感じている人」からの報告があふれています。

新型コロナウイルスは、私たちの仕事のあり方に大きな問いを投げかけました。医療従事者や物流業者といった、生活を支える「エッセンシャルワーカー」に光が当たる一方、在宅勤務を始めた人のなかには、これまで当たり前のようにやってきた業務のなかにも、必要なものとそうでないものがあることを自覚した人が多かったのではないかと思います。

その象徴が「はんこ」でした。書類をもらいに行ったらその書類をもらうためには上司のはんこが必要で、となるとはんこをもらうために別の書類を用意しなければならず、それを取りに行くために交通費の申請書が必要で……。少なくない人がこうした「書類の不条理」を経験したことがあるのではないでしょう。

はんこは日本のひとつの文化ではありますが、それによって手続きが理不尽なほど煩雑化し、さまざまな業務の障壁になってきたことも事実です。紙に出る力することになるので、環境にも必要なフカ^ウがかかります。雇用形態そのものではありませんが、はんこは、^②私たちの身の回りにある典型的なブルシットの業務です。この点に関して見直しが進んだことは、コロナが仕事にもたらしたポジティブな効果といえることができます。

では、いったいなぜ、ブルシット・ジョブが世界的に増えているのでしょうか。グレーバーは、その根本的な原因として、数値化できないものを数値化しようとする欲望と、その背後にある X をあげます。

わたしのいいたいのは、実質^{リアル}のある仕事^{ジョブ}のブルシット化の大部分、そしてブルシット部門がより大きく膨張している理由の大部分は、数量化しえないものを数量化しようとする欲望の直接的な帰結だということである。はつきりいえば、自動化は特定の作業をより効率的にするが、同時に別の作業の効率を下げるのである。

(同前)

『測りすぎ』でミューラーが指摘したとおり、私たちはあらゆる労働が数値によつて評価される時代を生きています。その指標が本当にその労働を正しく評価しているのかどうかは、分からない。ひとまず数値化しやすいものが数値化され、それを最大化するために働く、という Y が起きています。そうすることによつて、「客観的」にみえる指標にもとづいて生産性を判断し、管理することができるようになるからです。

グレーバーは、一九七〇年代から、労働者の給料が生産性の向上に見合ったあがり方をしていないことに注目します。それまでは、生産性があがれば、賃金はそれに連動して増えていきました。ところが七〇年代から、生産性があがっても賃金があがらなくなるのです。

なぜか。生産性があがった分から得られた利益が、給料を増やすためではなく、管理職やそれにフズイ^エする事務職を増やすことに使われたのです。ブルシット化しているのは、この「管理すること」を目的としてつくられた層なのです。

③ これは大変皮肉なことです。企業は利益を最大化することを目指していますから、市場の競争原理に任せれば、あらゆるものが合理化すると考えられてきました。管理部門も、本来、競争に勝つために設置されたはずです。

ところが実際には、管理部門が現場とは異なる価値観で介入を行うことによつて現場に混乱をもたらすケースが報告されている。また、管理部門で働いている人たちのなかにも、自分の仕事を意味がないと感じるような人が出てきたりしている。これでは、当初の狙いとはまったく逆の状況です。

特定の目的に向けて他者をコントロールすること。私は、これが利他の最大の敵なのではないかと思っています。

(伊藤亜紗『利他』とは何か』より。一部改変)

【注】 ○ミューラー——ジュリー・Z・ミューラー。アメリカの歴史学者。『測りすぎ』は、数字による評価の行き過ぎがもたらす弊害について論じた著書。

問一 — 線部ア～エのカタカナの部分と同じ漢字を用いるものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- 1 ア 1 部屋のイチグウを照らす。
2 ハイグウシヤ控除を受ける。
3 センザイイチグウのチャンスだ。
4 神社のグウジに会う。
- 2 イ 1 仕事に認められてシヨウキウウを確認する。
2 小売りのシヨウキウウを確認する。
3 伝統芸能をケイシヨウウする。
4 物を壊したので全額をベンシヨウウする。
- 3 ウ 1 お祭りでみこしをカツグ。
2 追徴カゼイを請求される。
3 責任をテンカする。
4 ツミニを降ろして出港する。
- 4 エ 1 富士山についてのズイヒツを読む。
2 計画をカンスイする。
3 経営者にツイジユウする職務。
4 仕事のシンズイを理解する。

問二 空白部X・Yに入る最も適当な言葉を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- 5 X 1 利他の精神 2 業務の障壁
3 管理への欲望 4 現場を重視する価値観
- 6 Y 1 労働意欲の向上 2 逆転現象
3 労働の流動化 4 口裏合わせ

問三 — 線部①の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 7 1 「ブルシット・ジョブ」はエッセンシャルワークのように誰にでも必要とされる仕事であり、「シット・ジョブ」は人によってはまったく必要とされないことのない仕事である。
2 「ブルシット・ジョブ」は意味があるように見せかけながら本当は不必要な仕事であり、「シット・ジョブ」は必要な仕事であるにもかかわらず評価の低い仕事である。
3 「ブルシット・ジョブ」は実質のある仕事であり、「シット・ジョブ」は成果が数値化しにくい仕事である。
4 「ブルシット・ジョブ」は危険と隣り合わせでありながら低賃金の仕事であり、「シット・ジョブ」は仕事に見合わないほどの高給な仕事である。

問四 — 線部②の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

8

- 1 はんこを押すというエッセンスシャルワークを延々と繰り返すことで、理不尽なブルシット・ジョブを生み出している。
- 2 はんこをもらうことは社会的には必要な仕事で誰かがやらなければならぬにもかかわらず、ほかの仕事に比べて軽視されている。
- 3 書類をデータで送ればすむにもかかわらず、紙で印刷し、はんこをもらいにわざわざ出張しても、その仕事が社会に評価されることはない。
- 4 筋が通った論拠がないにもかかわらず、書類にはんこが必要であることによつて意味のない仕事を増やしてしまっている。

問五 — 線部③の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

9

- 1 企業は利益を増やすことを目的としているにもかかわらず、その利益を増やすために設置された管理部門が足を引っ張っている状況。
- 2 本来数値化が困難な労働を無理矢理数値化することで、生産性があるがらないばかりか管理職と労働者との間に溝を作っている状況。
- 3 利益を上げるために導入された数値化が、管理する側の労働負担になつている状況。
- 4 効率的に利益を上げるための取り組みが、目標達成を厳格化させ、現場の労働者の競争を激化させてしまつている状況。

問六 — 線部④の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

10

- 1 仕事にやりがいをもたせながら利益を上げるはずの取り組みが、完璧に無意味で、不必要で、有害といえるものとなつているということ。
- 2 数値目標を掲げることでシット・ジョブばかりが膨張し、管理部門の効率化にはなつていないということ。
- 3 客観的な基準に基づいて生産性をあげるための管理部門が現場を混乱させ、また管理をする側の被雇用者すらその仕事に意義が見いだせないということ。
- 4 ブルシット・ジョブを見直して仕事の生産性をあげたものの、必要のない仕事を増やし効率を下げることになつたということ。

問七 問題文の内容と合っているものを、次の中から二つ選びなさい。

11 1 一九七〇年代から民間企業では管理職を増やしていったため、現場の労働者の賃金は下降の一途をたどることになった。

12 2 労働を、見えない指標で数値化するようになると、成果を出そうとして管理体制が強まり、その結果シット・ジョブが増えることになる。

3 ブルシット・ジョブの中には意味のある仕事もあるが、その仕事にかかわっている人たちが働く意義を見いだせないことは問題である。

4 「はんこ」を押すことが日本の文化のひとつであるのは確かであるが、はんこをもらうために不条理な手間がかかることも多く、面倒な仕事を生んでいることは否めない。

5 医療従事者や物流業者といった社会生活に必要な職種の人が厳重な管理下におかれ、低賃金で働かされていることは深刻な問題である。

6 市場の競争原理に任せることで合理化を進め利益を最大化しようとしたが、人や仕事を管理しようとするだけばかりが目的化され、労働環境を悪化させることになった。

問八 一九二〇年代から一九三〇年代にかけて労働者が直面する厳しい現実を描いた作家に小林多喜二がいる。次の中から小林多喜二の作品を一つ選びなさい。

13 1 路傍の石 2 蟹工船 3 坑夫 4 生まれ出づる悩み

II 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。

今日では芸術は「感性」に、そして科学は「理性」に属するものというのが半ば常識になっていて、両者は互いに相容れない人間の精神活動の領域と考えられているふしがある。「芸術は感性なんだから、理屈なんか考えずに、自由に想像力をはばたかせればいいんだ」とか、あるいは逆に、「科学は感性じゃなくて理性なんだから、実証できないものを科学に持ち込むのは客観的じゃない」とかいった決まり文句を口にするとき、人はこの「感性≠理性」の二分法にはまりこんでいる。しかし本当に「感性≠主観的≠証明できない」VS.「理性≠客観的≠証明できる」なのか？ 両者は水と油のように相容れず、理性と感性の中間にオーバラップ領域はなく、そして両者を足せばこの世の中になると信じるなんて、あまりに単細胞すぎる。

古くから芸術は深く科学的認識と結びついていて、そもそも科学性なくしては大傑作など生まれようがないということは、たとえばダ・ヴィンチなどを考えればすぐにわかるだろう。『最後の晩餐』の構図は、芸術だの感性だのという以前に、まずは科学的空間認識だ。三次元の奥行があつて、座標軸的でシンメトリックかつ均質で、すべてが中心点からの遠近によって階層化され、統合された空間。これこそデカルトやニュートンが思い描いたのと同じ世界像ではなかつたか。世界の新しい見え方を数式や図の代わりに絵にすると、あのようになるのであつて、それは単なる「きれいな絵」などではなく、^①新しい世界観の設計図なのである。こんな例はいくらでも挙げる事ができるし、ハートと感性だけで芸術創作を試みるなど、物理学的知識もなしに建築設計をしようとするに等しい。そんな建物はあつという間にガカイしてしまふだろう。

同じく近代科学もまた、少なくともガリレオとかニュートンとかアインシュ

タイン並のブレイクスルーは、単なる「発見」というより、啓示とか幻視とかに近いものだったのだと私は信じる。彼らにはきつと、ある瞬間に突如として、まったく別の法則で世界が動いているのが視えたのだ。ダ・ヴィンチのように絵を描く代わりに、彼らは数式を記した。しかし彼らにはきつと数式化する以前にもう、画家の心の中に特定の「像」が浮かぶのと同じようにして、まったく新しい「世界の像」が視えていた。それは蟻のごとくコツコツと実証を積み上げていけば自動的に至るようなものではなく、預言者が雷に打たれたように別世界を視るのにも似た経験だったはずだ。

偉大な芸術家について、ある瞬間に突如としてそれまで聴いたこともないような響きが聞こえてきたとか、次の作品が眼前にまざまざと視えたといったエピソードが語られる。同じようにアインシュタインはあるとき、自分が光の速さで光を追いかける夢を見て、これが相対性理論の出発点になったと言われる。これは芸術家における靈感の一瞬ときわめて近い経験であつたと想像される。

芸術は科学であり、科学は芸術である。芸術は人が思っているほど気ままでファンタスティックなものではない。科学を欠いたハートだけの芸術は主観的なたわごとの類に終始するほかない。同じように、感性と幻視を欠いた科学はただのテクノロジーであり、それは日々の生活の利便性を向上させてくれはするだろうが、^②世界観のブレイクスルーには至るまい。

天才科学者にはガリベンの勤労の美德より天才芸術家の幻視がお似合いだ。「この」世界の中でいくら「 $1+1=2$ 」式の労働を積み上げても、「こちら側」の世界の中で「X」を続けるばかりで、「別の」世界への道は開けない。別世界を視るためにはキレツと跳躍が必要だ。しかし「こちら側」の世界の中にいて、その中で「客観性」を不滅の真理のように信じ込んでいる人から見

るなら、別世界を視るとは狂気であり幻視であり、Yと見えるやもしれない妄想である。

「別の世界を視る／見せる」という意味で、芸術と科学はかつての魔術師や預言者や錬金術師たちの双子の末裔まごえいである。周知のようにあらゆる芸術は古来、今では「科学」と称されているものとともに、神権や王権と深く結びついた「魔術」であった。たとえばピラミッドの美しい幾何学形や、巨大な尖塔せんとうをもつ教会や、そこで鳴り響く不思議なオルガンの音は、神の王国の奇跡を民衆に見せるための魔法であり、その演出には感性のみならず、ありとあらゆる同時代の科学的知識が総動員された。

統治手段としての魔術は、古くから権力（神や王）と深く結びついており、そもそも魔術もとい芸術／科学をもたなかった古代文明ウなどカイクウだろう。とりわけ音楽は芸術の中で最も情動的な芸術として、あらゆる神権統治にとって不可欠であつて、凶像を禁じる宗教はまれにあるにせよ、音楽（歌）を禁じた宗教というものを、私は知らない。

^b しかるに近代市民社会は、魔界に通じる危うい存在としての芸術／科学を、^③ 一生懸命脱魔術化してきたと言えるだろう。まだアインシュタインくらいまでは魔法使いの弟子的なオーラをまとうていたと思われる科学者たちだが、今の科学にもはや不透明な魔術性はみじんも残っていない。「もはや魔術ではない」と自己証明することこそ、近代科学の発展の最大のモチベーションモチベーションだったのかもしれない。それは「社会をよりよくしていく」という国家プロジェクトに奉仕する立派なツールでなくてはならず、そこには誰もが平等にアクセスでき、原理的には誰もが理解可能で、誰がやっても同じ結果になるという透明性をエタンポすることが、その至上命題である。科学においてすら、本当の「客観性」などというものはたして在るのかどうか、きわめて疑問であるにもかか

わらず、である。

科学を脱魔術化するためのツールが「コレハモハヤ魔術デハナイ」という「客観性」という名の呪文だったとすれば、芸術から魔術性を剝奪するためのキーワードは「娯楽性」である。つまり人は、たとえば美術館やコンサートホールで一時的に別世界に遊んだとしても、それはあくまで日々の労働のための気晴らし——リクリエーションとは要するに労働意欲の「再充填」のことだ——以上のものであつてはならず、そのままあちらの世界へワープしたりすることなく、^d いったん会場の外に出ればすぐに我に返らねばならない。

それは「マジックショー」であつて、本物のマジックになつてはいけない。「コレハ魔術デハナク奇術娯楽ダ」という呪文もまた、客観化の一種だ。奇術ならば——科学と同じように——「客観的な」タネと仕掛けがあるわけだし、少なくとも原理的には誰でもそれにアクセスしマスターすることができるし、練習さえすれば誰がやっても同じ結果になるはずなのだから。

（岡田暁生『音楽と出会う』より。一部改変）

問一 — 線部ア～エのカタカナの部分と同じ漢字を用いるものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

14 ア 1 食べ物がなくキガ状態にある。

2 種がハツガした。

3 江戸時代のカワラバンを調べる。

4 オオカミがキバをむく。

15 イ 1 オニに金棒。

2 試合をキケンする。

3 実現をキグする。

4 鶴は千年カメは万年。

16 ウ 1 人の心をカイジユウする。

2 不動産のチュウカイをする。

3 カイキ日食を見る。

4 カイコンの念にかられる。

17 エ 1 試合結果にラクタンする。

2 タンセイを凝らした盆栽。

3 すばらしい作品の出来栄えにタンショウウする。

4 怪我人をタンカで運ぶ。

問二 空白部X・Yに入る最も適当な言葉を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

18 X 1 牛歩の歩み 2 馬耳東風の態度

3 水魚の交わり 4 二兎を追うこと

19 Y 1 科学の脱魔術化 2 テクノロジーの進化

3 科学の客観化 4 科学の芸術化

問三 線部a～dの中で他と品詞の異なるものはどれか。次の中から一つ選びなさい。

20 1 a 2 b 3 c 4 d

問四 線部①の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

21 1 『最後の晚餐』は、魔術によって近代科学と芸術を融合し、新しい世界を切り開いた作品である。

2 『最後の晚餐』は、中心点からの遠近によって人物の位置が決められており、計算された新しい科学的空間認識により描かれた作品である。

3 『最後の晚餐』は、ダ・ヴィンチが突如啓示を受けて、あつという間に描き上げた新しい「世界の像」である。

4 『最後の晚餐』は、奇跡を民衆に見せるために芸術の手法をとった魔術の具現化である。

問五 — 線部②と筆者が考える理由として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

22

1 アインシュタインほどの科学者であっても、世界を幻視する能力を備えておらず、不滅の真理から抜け出すことができなかつたと考えているから。

2 科学と芸術は水と油のように相容れないものであり、魔術の力を借りることではか、新しい「世界の像」を近代市民に示すことはできないと考えているから。

3 科学は技術的な進歩によって日常生活を便利にはするが、天才的なひらめきを感じないと「別の」世界が開かれるほどのものにはならないと考えているから。

4 科学者は権力者をマジックで魅了し、その権力を使って市民社会の世界像を変えるほどの技術革新を行ってきたから。

問六

— 線部③の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

23

1 近代市民社会では平等性を重視するため、魔術の神秘性を広く人びとに伝えなくてはならないということ。

2 文明社会において「魔術」は一種の科学として生き続けており、それを科学の発展に役立てていくということ。

3 芸術や科学がもつ「魔術」性は民衆を扇動する有効な手段となるため、意図的に行使することを禁じなければならないということ。

4 芸術と科学は娯楽や道具となつて「社会をよりよくしていく」ために使われるものになつたということ。

問七 — 線部④と考える理由として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

24

1 芸術を娯楽化するためには不可解なものではないという透明性が必要であり、人びとが一時的にその世界で遊んでも、また日常生活に戻っていくものでなくてはならないから。

2 魔術は市民にとつて明日の活力となる程度の娯楽であることが重要であり、中毒性のある本当の魅力にとらわれては社会生活を送れなくなるから。

3 タネと仕掛けをバラして魔術性を消すことで、誰もが真似することができる娯楽として市民権を得ることができるから。

4 近代市民社会において、芸術はあくまでも労働時間外の楽しみとして位置づけられており、深くその世界にのめり込んで労働時間を削ってしまうことになるから。

問八 問題文の内容と合っているものを、次の中から二つ選びなさい。

26 25

- 1 精神の領域でいうならば、芸術は「感性」、科学は「理性」からはじまるものであるので、共同して何かを成し遂げようとするのは難しく、たとえ時間をかけたとしても期待する成果は得られない。
- 2 アインシュタイン並の科学者は、芸術家と同じように従来とは異なる新しい「世界の像」を感知し、新しい理論を携えて、今までとは異なる世界へと突破していった。
- 3 権力者は芸術と科学を総動員することで「魔術」を演出し、自分の力を誇示する道具として使ってきた。
- 4 近代社会における芸術家は「コレハモハヤ魔術デハナイ」という呪文を最初に唱えることで市民として受け入れられてきたが、その裏で密かに魔術的な世界を受けついでいった。
- 5 ガリレオやニュートンのような科学者は、コツコツと実証を積み重ねながらも、魔法使いの弟子といったオーラをまとうことで後世にまでその名が知られている。
- 6 音楽は芸術の中で最も宗教的な儀式と結びつきやすい情動的な芸術であるが、特定の世界観に依存しているため、そこからブレイクスルーを起こすことはなかった。

III 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。

〔以下は、葵祭における小舎人童と少女の出会いをきっかけに進展する物語である。〕

いづくのにかあらむ、薄色着たる、髪は丈ばかりある、頭付き、様体、何もいとかしげなるを、頭の中將の御小舎人童、思ふさまなりとて、いみじうなりたる梅の枝に、葵をかざして取らすとて、

A 梅が枝にふかくぞ頼むおしなべてかざす葵のねも見てしがなといへば、

B 注連のなかの葵にかかる木綿葛くれどねながきものとしらなむと、おしはなちていらふもされたり。「あな聞きにくや」とて、笏して走り打ちたれば、「そよ、そのなげきの森の、もどかしければぞかし」など、ほどほどにつけては、かたみにいたしなど思ふべかめり。その後、常に行きあひつとも語らふ。

いかになりにけむ、うせ給ひにし式部卿の宮の姫君の中になむさぶらひける。宮などとかくれ給ひにしかば、心ぼそく思ひなげきつつ、下わたりに、人少なにて過ぐし給ふ。上は、宮のうせ給ひけるをりに、さまかへ給ひにけり。姫君の御かたち、例の事といひながら、なべてならぬびまさり給へば、「いかにせまし、内裏などに思し定めたりしを、今はかひなく」など思しなげくべし。

この童、来つつ見るごとに、頼もしげなく、宮の内も、さびしくすごげなるけしきを見て語らふ。「まろが君を、この宮に通はし奉らばや。まだ定めたる方もなくておはしますに、いかに良からむ。ほどはるかになれば、思ふままに

も参らねば、おろかなるとも思すらむ。また、いかにとうしろめたき心地もそへて、様々やすげなきを」と言へば、「さらに今は、さやうの事も思しのためはせずとこそ聞けば」と言ふ。「御かたち、めでたくおはしますらむや。いみじき御子たちなりとも、あかぬところおはしまさむは、いとくちをしからむ」と言へば、「あな、あさまし。いかでか。見奉らむ人々のたまふは、『よろづむつかしきも、御前にだに参れば、なぐさみぬべし』とこそたまへ」と語りて、明けぬれば往ぬ。

かく言ふほどに、年もかへりにけり。君の御方に若くてさぶらふ男、好ましきにやあらむ、定めたるころもなく、この童に言ふ。「その、通ふらむ所はいづくぞ。さりぬべからむや」と言へば、「八条の宮になむ。知りたる者さぶらふめれども、ことに若人あまたさぶらふまじ。ただ、中將・侍従の君などいふなむ、かたちも良げなりと聞き侍る」と言ふ。「さらば、そのしるべして伝へさせよ」とて文とらすれば、「はかなの御懸想かな」と言ひて、持て行き取らすれば、「あやしの事や」と言ひて、持て上りて、「しかしかの人」とて見す。手も清げなり。柳に付けて、

C 下へのみ思ひ乱るる青柳のかたよる風はほめかさずや知らずはいかに」とある。「御返事なからむは、いと古めかしからむ。今様は、なかなかはじめのをぞし給ふなる」などぞ笑ひてもどかす。少し今めかしき人にな、

D ひとすぢに思ひもよらぬ青柳は風につけつつさぞ乱るらむ今様の手の、かどあるに書きみだりたれば、をかしと思ふにや、まもらへたるを、君見給ひて、後ろよりにはかに奪ひ取り給ひつる。

〔『堤中納言物語』より。一部改変〕

【注】○薄着色たる——以下、「何もいとをかしげなる」までは、少女の容姿の描写である。

○されたり——しゃれている。

○笏——祭礼や儀式の際に手に持つ細長い板。

○なげきの森——大隅国の歌枕。ここでは「嘆き」と「投げ木」とを掛けている。

○姫君の中になむさぶらひける——少女が姫君のもとに出仕したことをいう。

○上——姫君の母。

○ほどはるかになれば——少女の出仕先が小舎人童の出仕先からはるか遠くになったことをいう。

○君の御方——「君」は頭の中将。

○中将・侍従の君——いずれも姫君に仕える女房。

問一 〰️線部ア～ウの解釈として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つ

ずつ選びなさい。

27 ア 1 慕わしい 2 気の毒だ

3 痛々しい 4 言い出しにくい

28 イ 1 律儀な人だとも 2 強引な人だとも

3 いいかげんな人だとも 4 馬鹿正直な人だとも

29 ウ 1 大事に隠して 2 笑いをこらえて

3 じつと見つめて 4 しばらく考えて

問二 〰️線部の終止形「さまかふ」と同じ意味の古典表現を、次の中から一つ

選びなさい。

30 1 世に経よ 2 世を渡る 3 世に聞こゆ 4 世を背く

問三 「なむ」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

31 1 「なむ」は終助詞である。

2 「なむ」は係助詞である。

3 「な」は完了の助動詞で、「む」は推量の助動詞である。

4 「な」は副詞で、「む」は推量の助動詞である。

問四 A～Dの和歌の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 32
- 1 Aの歌は二句切れである。
 - 2 Bの歌には枕詞が用いられている。
 - 3 Cの歌は体言止めである。
 - 4 Dの歌は四句切れである。

問五 — 線部①の内容として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 33
- 1 姫君が年々美しくなっていたこと。
 - 2 姫君が結婚に適した年齢になったこと。
 - 3 姫君が若くして男に言い寄られたこと。
 - 4 姫君の容姿が見劣りするようになったこと。

問六 — 線部②の内容として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 34
- 1 小舎人童を宮中に迎えること。
 - 2 少女が宮仕えを続けること。
 - 3 姫君が結婚すること。
 - 4 頭の中将が女性のもとに通うこと。

問七 — 線部③が表す心情として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 35
- 1 姫君の入内を画策するのは高望みが過ぎるとたしなめる心情。
 - 2 姫君の評判を聞いた途端に興味を示す移り気な様子に呆れる心情。
 - 3 姫君の容貌の美しさに疑念を呈する態度をとがめる心情。
 - 4 姫君の結婚が果たされない限り困窮から脱するのは不可能だと嘆く心情。

問八 — 線部④のように話者が発言した理由として最も適当なものを、次の中

- 36
- から一つ選びなさい。
- 1 小舎人童の交際している少女がどれほど美しいのか興味があるから。
 - 2 小舎人童の通う屋敷に自分の相手としてふさわしい女性がいるか知りたいから。
 - 3 小舎人童が少女のもとに通っていることを分不相応だと感じたから。
 - 4 小舎人童が自分に教えた姫君の容姿について本当なのか確かめたいから。

問九 — 線部⑤のように話者が発言した理由として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

37 1 姫君に対する下心の見え透いた恋愛なので失敗に終わると確信したから。

2 恋慕の対象をすぐに変えようとする態度を軽蔑したから。

3 姫君に接近するために女房を口説くという策に呆れたから。

4 相手を特定せずに恋文を送ろうとする姿勢に疑問を感じたから。

問十 問題文の内容と合っているものを、次の中から二つ選びなさい。

38 1 頭の中将は、姫君の手紙を小舎人童から取り上げた。

39 2 少女は、小舎人童と協力して姫君と頭の中将の手紙のやりとりを実現しようとした。

3 小舎人童は、時折姫君の屋敷に足を運んでいた。

4 式部卿の宮は寂しい様子で暮らしていた。

5 頭の中将に仕える若い男は、小舎人童のはたらきで和歌の返事を得た。

6 姫君に仕える女房たちは、頭の中将に仕える若い男が詠んだ和歌を古めかしいと思った。

問十一 『堤中納言物語』と同様に作り物語に分類される作品を、次の中から一つ選びなさい。

40 1 春雨物語 2 平中物語 3 栄花物語 4 落窪物語